

学者と金持

三宅恒乃

学門—小生の立場から、科者と限定して置

きなつ—の研究。金は、それと到底不可能で

ある。数学など、<sup>機械や薬を要する物理化学の</sup>鉛筆心は、あつたを充分

く考へられる。法—とさうである、あせ

ふら、科者の研究は、従来後之上げられた、<sup>の</sup>

の上、要は、<sup>新し—の</sup>積之上げると目的とする

の、<sup>既—</sup>あり、<sup>既—</sup>ある部門を就し

従来どれだけの研究は、<sup>既—</sup>あり、<sup>既—</sup>知る中

要は、あり、<sup>既—</sup>従つて数学の如く機械や薬を要する

不用である、各種の文献を要する、<sup>既—</sup>である、

之、<sup>既—</sup>可なり、金の入用である。小生の専門

の昆虫学など、<sup>既—</sup>文献の外、<sup>既—</sup>標本や機械など

の、<sup>既—</sup>いる事、<sup>既—</sup>勿論、<sup>既—</sup>文献で、<sup>既—</sup>蝶は、<sup>既—</sup>の研

究、<sup>既—</sup>完全を望む、<sup>既—</sup>五牛岡(松村教授調査)

位掛る。昆虫学、<sup>既—</sup>シ、<sup>既—</sup>十戸岡

必要である、<sup>既—</sup>た、<sup>既—</sup>真面目な考へると、科

学者の系、<sup>既—</sup>ど、<sup>既—</sup>金持である、<sup>既—</sup>不

可なり、<sup>既—</sup>、<sup>既—</sup>